# 第１章　景観計画の基本方針

## １．景観形成のテーマ（基本理念）

・本市の景観の最大の特徴は、盆地の一角にぶどうや桃の果樹園が一面に広がっており、その中に歴史資源・文化資源が集積していることにあります。
・市民アンケートにおいても、甲州市らしい景観として最も多くの意見があげられたのは、高台からの盆地への俯瞰（高い所から見下ろす）景観でした。
・これらのことから、景観形成のテーマ（基本理念）を以下のように定めます。

**◎果樹園と歴史・文化が織りなす**
**魅力あふれる景観を守り育む**

＊甲州市らしい伝統的な建築様式や暮らしの景観等を継承しつつ、産業の振興とともに、新たに美しく質の高い甲州市の景観を創造していくことを目指します

## ２．景観形成の基本方針

・本市の良好な景観を保全・創造するために、特に特徴的である眺望景観に関する方針と、地区景観に関する方針、さらにそれらを推進するための方針に分けて、景観形成の基本方針を設定します。

■景観形成の基本方針

**１）眺望景観に関わる方針**

眺望景観のなかで特に良好で特徴的な眺望地点を「重要眺望地点」と定めて、その眺望地点からの景観を大切に守り、創造していく。

①高台から見下ろす果樹地帯の景観を良好に保つ
②富士山、南アルプス、大菩薩領等の山並みが見える環境を大切にする

**２）地区景観に関わる方針**

身近で小さなスポット景観を地域資源として、住み心地の良い景観と、来訪者からみて魅力的な景観を“歩くスケール”で形成していく。

①歴史的な資源を保全し次代につなげる
②樹園の景観を保全する
③土に育まれた甲州民家などを大切にする
④路（堰）などの特徴的な水環境を大切にする
⑤看板や広告を秩序あるものにしていく

**３）景観形成の進め方に関わる方針**

①市民が美しい景観づくりに参加しやすい環境を整え、地域の豊かさを創造する
②公共事業で手本を示していく

### 1）眺望景観に関わる方針

本市においては、盆地地形と果樹園、そして盆地を囲む山々がつくりだす眺望景観が重要であり、果樹園と歴史・文化が織りなす景観をより美しくしていくことが、魅力ある景観形成のためには必要です。

本市の特徴である俯瞰景観は眺望景観の一つであり、ぶどうの丘や牛奥みはらしの丘などを代表とする高台や盆地の縁部には、眺望を楽しめる数多くの視点場（見る場所）があります。

しかしこれらが十分意識されていないために、視点場の前の樹木が生長し景観を遮ったり、視点場の居心地に配慮されていなかったりするなど、素晴らしい景観が地域づくりに生かし切れていない状況です。

そこで、重要な眺望地点を定め、市民が眺望景観を財産として共有することで、地域固有の魅力ある景観を育む意識を醸成します。

#### ①高台から見下ろす果樹地帯の景観を良好に保つ（俯瞰景観の保全）

**【現状と課題】**

・ぶどうの丘やフルーツライン等の高台から見下ろす果樹園と市街地が、遠景の南アルプス、乾徳山などの名山を背景にして広がる盆地の眺めが、もっとも特徴的な景観と言えます。しかしながら、足元に目を向けると、家並みの不統一、調和に欠ける大規模な建築物、果樹園の耕作放棄などによって、美しい盆地景観が損なわれている箇所もあります。

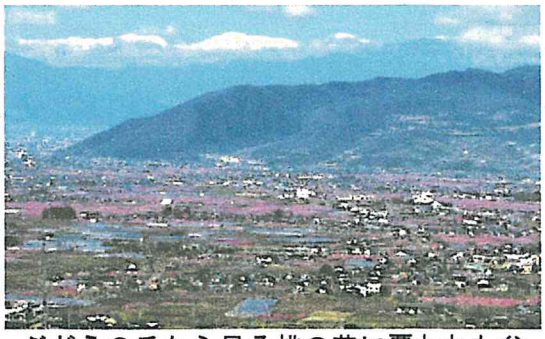
**【取組の方向】**

・個々の建築物の屋根や壁などが周囲と調和するように、統一感が感じられるように努める、大規模な建築物は美しくシンボリックなものにする、あるいは周囲になじんだものにします。

・最も重要な景観的要素である果樹園を、景観に配慮が足りない人工的な工作物の介入で雑然化させないようにします。

・その他、斜面林や社寺林を保全する、住宅地の緑を守る、増やすなど地域に暮らすすべての方のさまざまな景観づくりの取り組みが進められるように意識を醸成します。

フルーツラインの牛奥みはらしの丘から見る果樹園地に覆われた景観



ぶどうの丘から見る桃の花に覆われた盆地景観

## ②南アルプス、富士山、乾徳山、大菩薩連嶺などの山並みへの眺望を確保する

**【現状と課題】**

・盆地の周囲を取り囲む山並みは、眺望景観の骨格を形成するものであり、特に南アルプス、富士山、大菩薩嶺といった日本を代表する特徴のある山並みを望む景観は、この地域の大きな特徴です。また、御坂山塊や曽根丘陵など近傍の山々が特徴的な景観をつくっています。

・しかし、電柱や電線あるいは建築物が眺望を阻害していたり、視点近傍で繁茂した樹林などによって視界を遮られていたりする所も少なくありません。

・これら周囲を取り巻く山並みへの眺望を意識して眺望を確保していくことが重要です。

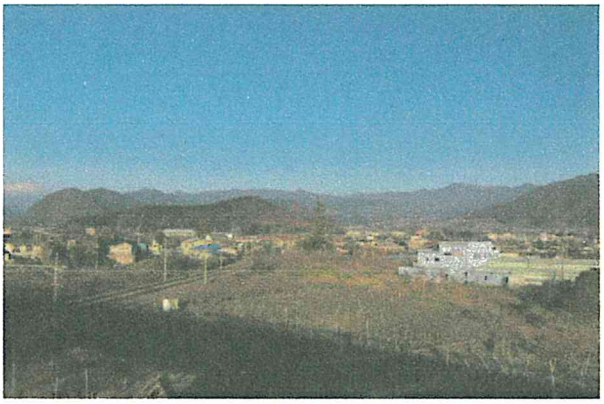
**【取組の方向】**

・市内から南アルプス、富士山、大菩薩嶺あるいは御坂山塊といった山並みを眺めることのできる視点場はたくさんあり、これらの中で重要なものについては、視界が遮られることのないように配慮します。

・ぶどうの丘のような重要な眺望地点は、その場所からの眺望を確保すると同時に、視点場を快適な環境となるようにします。

・中央本線でトンネルを抜けてぶどう畑が広がる景観や、フルーツラインからの夜景などは甲州市らしさを感じさせるものとして意識されており、固定された眺望点だけではなく、中央本線・フルーツライン・中央自動車道路など、移動する視点場も含めて重要な眺望地点からの山並みへの景観を確保します。

・そして、これらの眺望点を市民に浸透させるため、市民公募で「甲州〇〇景」を定める等の工夫を行います。



大菩薩嶺を遠望する視点場からの景観

富士山を遠望する視点場からの景観

### 2）地区景観に関わる方針

本市においては、美しい景観や歴史ある資源が豊富にあり、歩いて楽しむコースがいくつも設定されています。

このような取り組みにより、本市にとって大切な景観資源は身近にあることを認識して守り育てる意識が育まれ、歩いて楽しむことのできる景観を大切にする気運を高めます。

例えば民家の軒先や果樹園の石垣に草花が植えられていたり、路傍の石造物に飾りがされたりしていると、歩いて楽しく、また歓迎されているような気持ちになります。

しかし、山裾に近い緑あふれる果樹園地帯は、過疎化や高齢化により、空き家や耕作放棄された農地が出てきています。また、手入れをする人がいなくなって、道祖神や石仏などが草むらに埋もれてしまっている場合もあります。

そこで、歩いて楽しむことができる景観を大切にし、地域へ訪れる方への歓迎表現となるように努めることが必要です。その場所の特色を活かした伝統的な景観等の質を高めると共に、住み心地のよい環境づくりを目指します。

そのために、辻々に見られる石造物、巨木、調和のとれた板塀や生け垣、庭や石垣の草花など、歩いて楽しめるような様々な資源を発掘するなど、市民の間で共有する取組み等を通じて大切にしていきます。

■歩くスケールで形成を推進する

| |
|---|
| ①歴史的な資源を保全し次代につなげる |
| ②果樹園の景観を保全する |
| ③風土に育まれた甲州民家などを大切にする |
| ④水路（堰）など特徴的な水環境を大切にする |
| ⑤看板や広告を秩序あるものにしていく |

## ①歴史的な資源を保全し次代につなげる

**【現状と課題】**

・甲州市には甲斐の国を治めた武田家ゆかりの神社仏閣が多数存在し、信玄公の菩提寺である恵林寺、勝頼公の菩提寺である景徳院、風林火山で有名な「孫子の旗」を有する雲峰寺など、県内を代表する社寺ばかりです。

・また、恵林寺庭園をはじめ、向嶽寺庭園、大善寺庭園、栖雲寺庭園など当時の僧により作庭された庭園は国や県の名勝に指定されており、当時から文化の中心だったことがうかがえます。

・さらに、国内のワイン醸造発祥にまつわる近代産業遺産、甲州街道や鎌倉への古道、秩父往還など歴史的な街道・宿場町が残され、丸石道祖神など地域特有の歴史・文化資産が数多く存在します。

・しかし、広告や看板、あるいは店舗や自動販売機、コンクリート擁壁などが歴史的雰囲気を損ねている場合があります。

・一方、点在する歴史資源をつなぎ合わせたり、あるいは面的な環境として歴史的雰囲気を高めたりするような取り組みは不十分な状況です。

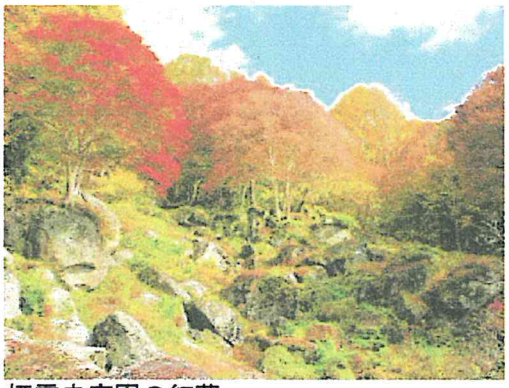
・こうした歴史的な資源を保全・修復し、また歴史的環境が豊かな雰囲気づくりを行うことにより、本市らしい景観を次代に継承することが求められています。

**【取組内容】**

・歴史的な資源を保全し、これらの歴史的資源を景観まちづくりに活かしていく視点により整備を促します。

・歴史的雰囲気を損ねるような広告や看板、あるいは店舗装飾や自動販売機、コンクリート擁壁などの施設について、景観に配慮したものとするよう改善します。

・また、歴史的資源を活用するために、資源間を連携させる落ち着いた遊歩道づくりや、樹木や草花による修景整備を進めます。



栖雲寺庭園の紅葉

大善寺の景観整備

## ②果樹園の景観を保全する

**【現状と課題】**

・本市の代表的な景観は、全国的に例を見ない複合扇状地を覆うぶどう棚や、緩傾斜地に広がる桃、すもも畑などの果樹園景観ですが、その果樹園が近年の農業就業者の高齢化や減少による耕作放棄地の増加等により、景観維持が難しくなりつつあります。

・果樹園の保全については、農業振興が優先されるべきであり、担い手の育成、組織の強化、農地の集約化、作物のブランド化など様々な取り組みを行う必要があります。

**【取組内容】**

・果樹園を保全するためには農業振興策である果樹園の担い手の確保が基本となりますが、農業技術の進歩による耕作方法の変化と共に、それらが構成する景観も変化するため、景観を固定化するのではなく、産業景観として、その変化も含んだ将来像を設定します。

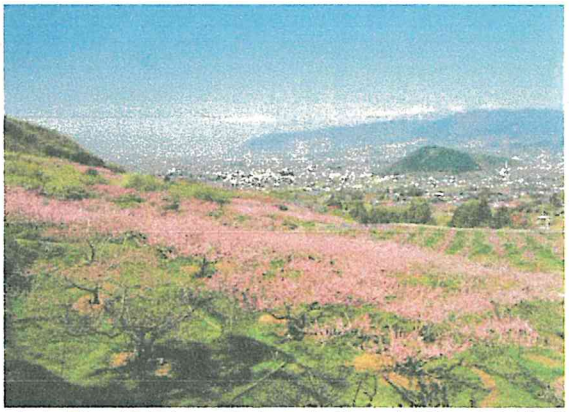
・景観の面からも果樹園を保全すべき対象として位置づけ、生活やワイン醸造なども取り込みながら、文化的景観として選定し、後世に伝えていくことを検討します。

・盆地から、山裾の果樹園が印象的に見える場所では、山裾の果樹園に対する視界を遮らないように配慮します。

・景観を阻害するような農業耕作物や農業資材の改善を図ります。

・建築物や構造物を建設する場合、果樹園と調和する色彩、素材に配慮します。

傾斜地に展開するぶどう畑は、見る場所としても、見られる対象としても重要



向久保の桃畑は、現在でも花の時期には来訪者を集める景観資源となっている

## ③風土に育まれた甲州民家等の伝統建築を大切にする

**【現状と課題】**

・本市には、甲州民家と呼ばれる、切妻の大屋根に中央の突き上げ屋根が特徴的な茅葺民家が多く残されています。切妻造でこれほど大きな屋根を有するのは、この地域が山に囲まれ、風があまり吹かないから実現できたともいわれ、全国でも非常に珍しい地域となっています。

・しかし甲州民家は、冬の寒さや維持管理の難しさ、住宅会社が提唱する合理的な住宅への志向などから、徐々に数が減ったり、原型をとどめないような改装が行われたりしています。

・また、新築の住宅は地域の風土や風習に無関係に、全国で画一的に建設されることが多く、本市らしい集落景観の個性が失われつつあります。

・地域らしさを保全するには、こうした、地域風土に育まれた甲州民家等の伝統建築を大切に保存して、これと調和する集落景観の形成を図る必要があります。

**【取組内容】**

・まだ数多く残された甲州民家を大切に保全していくように、伝統的建造物群保存地区の選定や登録有形文化財への登録などの支援策を検討します。

・新たな建築を立てる場合でも、地域の歴史や風土に育まれた建築があることを踏まえた上で、風通しの良さなどエコ建築の側面を持つ甲州民家の知恵を、現代の建築にも生かしていけるような取り組みに努めます。

甘草屋敷

甲州民家情報館

飯島家住宅

旧田中銀行

中央区区民会館

勝沼宿

## ④水路（堰）などの特徴的な水環境を大切にする

**【現状と課題】**

・大中河川から堰と呼ばれる水路を引き込んで、道に沿って縦横に水が流れており、現在も美しい水音を響かせています。

・しかし、車社会になり道幅が狭い場所の堰は、蓋がかけられ暗渠化され、水面が見えないようになりつつあります。

・また、管理のしやすさから、コンクリート三面張りの水路に改修される例が多くあります。

・石積み護岸の堰は清流と水音によって地域に潤いと風格を与え、景観の質を向上させる要素です。

**【取組内容】**

・地域に今も残っている堰の保全を支援して、従来の景観の復元など、地域と一体となった保全や活用あるいは再生を可能な限り図ります。

・改修に当たっては景観に配慮した工夫を取り入れるなど、地域風土と一体となった保全や活用を図ります。

等々力周辺の堰

西藤木の水車にかかる“小屋敷堰”

## ⑤看板や広告を秩序あるものにしていく

**【現状と課題】**

・ロードサイドや飲食施設、観光農園やワイナリーなどが立地している地区では、それぞれ個別に広告や看板、のぼり旗を設置していることから、歴史や自然の風情にそぐわず、地域のイメージを低下させる要因となっている場合があります。

・一方で、広告は企業や店舗の顔として、そのイメージを表すものでもあるため、デザインや素材、色彩等に配慮され、景観の魅力を高めているものもあります。

・看板や広告などの屋外広告物に秩序を与えることで、分かりやすい案内を行うと共に、果樹園の広がる景観を阻害しないような対策が必要です。

**【取組内容】**

・周辺の特性に配慮しながら、設置の禁止や制限を含め、設置数や色彩、デザイン及び素材などについて、一定のルールの基で秩序ある設置を誘導します。

・農園地区においては、地区名を決めて共同で集合看板を設けたりするなどし、看板の数を減らすよう努めます。

・公共のサインについて、統一されたわかりやすいものにしていきます。

品格に欠けるのぼり旗の乱立

統一感のない看板の集積

派手な色彩の屋外広告物

視認性を重視しすぎ周囲に配慮のない屋外広告物

### ３）景観形成の進め方に関わる方針

景観は計画をつくれば良くなるものではありません。

市民や来訪者が、何度も訪れたり日常生活の中で比較したりすることで、よくなったと実感し、景観が良くなったことで暮らしが豊になったと感じられるように進めなければ、より良い景観形成は進みません。

そのために、景観形成に取り組み姿勢として、以下の方針を設定します。

**①市民が美しい景観づくりに参加しやすい環境を整え、地域の豊かさを創造する**

**【現状と課題】**

・現在、市民が主体となり地域を知り、積極的に地域づくりに取り組む活動が市内の各地で活発化しつつあります。

・そうした市民活動を市民協働の理念に基づき、行政が支援していくことが必要です。

**【取組内容】**

・美しい景観づくりに興味がある人、実際に取り組みたいと思っている人が積極的に参加できるよう、市民や団体の登録を行い、登録者の取り組みを支援します。

・景観シンポジウム等の啓発イベント等を開催することにより、市民の景観への関心を高めます。

・ 観光マップや文化財マップなどと連携し、市内の活性化と併せ景観への関心を高めます。

・地域の景観まちづくりに貢献している団体や個人を表彰することにより、市民の美しい景観づくりへの意識向上を図ります。

・市民の美しい景観づくりや市の景観施策を紹介するパンフレット等の作成、市の広報やインターネットの活用により、景観に関する情報を積極的に発信します。

・景観に関する相談窓口を設置するなどし、市民からの相談等に対し適切な対応ができるような体制整備を進めます。

## ②公共事業で手本を示していく

**【現状と課題】**

・比較的規模の大きい公営住宅などの公共建築物、あるいは道路、擁壁、街灯、ガードレールなど土木構造物などは、景観的な配慮の有無が地域の景観形成に少なからず影響を与えます。

・公共施設は、多くの市民が利用する場であることから、市民を主体とする良好な景観形成を先導する上で重要な役割を担うものであり、市民が共有する文化的な景観要素といえます。

・地域の施設として、質の高いデザインに加えて、歴史文化的な背景や自然環境との調和など、地域の特性を演出する工夫が望まれます。

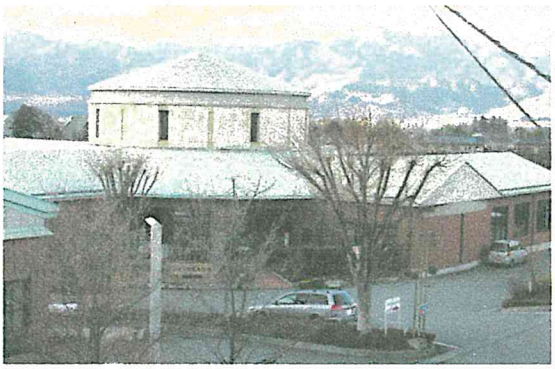
**【取組内容】**

・コスト面を重視し計画するだけではなく、色彩、デザイン、緑化、歴史文化的な背景や自然環境との調和などに配慮して、景観づくりの手本となるような整備を行います。

・本市は傾斜地の多い地形であるため、道路造成や農地整備などにおいて、擁壁が出現しやすくなります。例えばこの擁壁に一般的なコンクリートブロックではなく、表面に凹凸の変化のあるブロックを用いたり、自然石を用いたりすることで、景観になじみやすいものとなります。

**表面に凸凹の変化があるブロックは、自然素材に見えて周囲になじみやすい**

**擁壁に丸石を使用しており、柔らかい景観になっている。**



**かつぬまぶどうの国文化館**

**ぶどうの丘　（宿泊塔）**